



### I-OWA マンスリー・セミナー講演より テラ・ルネッサンスの活動について

講演： 鬼丸 昌也氏  
(認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス理事・創設者)  
レポーター： 赤堀 薫里

大学 4 年の時に一人で設立した認定 NPO 法人テラ・ルネッサンスは、現在、日本人の職員は 12 名、海外の拠点は 4 か所、職員は総勢 40 名となりました。「全ての生命が安心して生活できる社会」になることを我々は世界平和だと考えており、そのような社会を実現することが、私達の目的になります。

僕達の活動地域は 6 か所あり、もともと始めたのは、カンボジアの地雷除去の支援活動と、地雷の被害者の生活再建の事業でした。併せてラオスでは、クラスター爆弾の不発弾によって、被害を受けた人達の生活再建事業をしています。また国内では、平和教育にも力をいれている為、私自身は年間 120 日、講演をしております。2011 年 3 月 11 日以降は、岩手県の大槌という町で、被災をされた特に高齢の女性の方に向けた生活再建の事業も行っています。



これからお話するのは、アフリカの 3 つの国で取り組んでいる、元子ども兵の職業訓練の実施についてです。僕達の活動している一つの国がウガンダです。この国は、緑豊かな温暖な気候の、農業にも適す内陸の国です。ウガンダは、商業用のビルやホテルの建設がどんどん進み、ここ数年、GDP の成長率が 5%を下回ったことはありません。もはやアフリカは、貧しいだけの大陸ではなく、豊かになるところは更に豊かに、貧しくなるところはより貧しくなり格差が広がっています。

ウガンダの南隣には、フツとツチという二つの民族の大量虐殺があったルワンダという国があります。今のルワンダは、アフリカのシンガポールと言われ、Microsoft Windows の基礎部分を全て開発しています。国家が ICT 政策に力を入れ、ビットバレーのようなものを作り、優秀な学生を留学さ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

せ、帰国後どんどん起業させています。日本の場合、起業して登記するまでには、煩雑な書類の手続きに2~3日かかりますが、ルワンダは、登記までにオンライン上で6時間で済みます。アフリカ・イコール「貧しい」と思い込んでいるとこのような変化を見抜けないでしょう。実際に何がそこで起きて、何が問題なのか、きちんと見極めていくことが、これからの時代を見据えていく上で大事なことです。

子ども兵の調査をする為に、初めてウガンダの北部に行った時は、海外安全情報によれば赤色の退避勧告地域でした。ここでは23年間、ウガンダ南側を基盤とする「ウガンダ政府軍」と、北部を拠点する「神の抵抗軍」が、ウガンダ北部で戦争中でした。神の抵抗軍は、23年間の戦争中に子どもたちを誘拐し、どんなに少なく見積もっても、2万人もの子ども達を兵士にしました。



私達が子ども兵の問題に関心を持った理由は、大学時代に始めたカンボジアでの地雷除去の活動をしていた時、何年もの間、内戦中だったカンボジアでたくさん子ども兵に出会ったからです。戦争は、見たくないこと、聞きたくないことも体験し、心に様々なトラウマを抱えます。しかし、今は既にカンボジアの戦争は終わり、子ども兵は、肉体的には大人になっています。しかし子ども兵の時に受けた傷害やトラウマに今も苦しみ続けています。つまり、子ども兵の問題は時間を超え継続しています。

地雷の問題に出会った学生の時と同様、「子ども兵の問題でも何か取り組むことができないのか」と気づいたのが2003年のことでした。問題を明らかにしないと伝えることもできず、どう対応して良いのかわかりません。だから、子ども兵の問題が現在進行形で進んでいるウガンダ北部に行きました。

この後、講演では、元子ども兵の悲惨な過去や、私達も間接的に子ども兵の問題に関わっていた背景について、また職業訓練実施の現状についてお話がありました。そして最後に、「支援や援助は、お金のある人や、力の強い人が、貧しい人に一方的に施すことでは決してない。支援をするものも、されるものも、その行為を通じて何が問題であるのか明らかにし、その問題解決のプロセスを通じて、主体者である自分自身が成長していくことである。自己変革や自己成長が伴わない社会貢献ほど単なる自己満足はない。主体者である私達が、少しずつ変わっていくことが大事である。」と、活動理念を熱く語られました。今、私達に何ができるのか、考えるきっかけを頂きました。